

第3学年2組 音楽科学習指導案

分科会Ⅰ 場所 音楽室 指導者 上原 正士

1 題材名 チャレンジ！いろとりどりのリミックス～リズムのつなげ方～

音楽づくりの学習が進んでいくと、作品の演奏を繰り返す子どもの姿が見られることがある。これは、正確に演奏することで自分が考えた表現の工夫のよさを感じたいという思いの表れであると考えられるが、作品をつくりかえることがほとんどなく、思いや意図に合った表現を試行錯誤している姿とは言えないだろう。

本学級の子どもたちに目を向けてみると、リズムアンサンブルの学習の中で、反復や変化を楽譜に取り入れていたものの、思いや意図に合った表現の工夫として必要かどうか判断をしていたと言い難い。その背景には、このような音楽をつくりたいという思いを十分にはもてないまま、音楽づくりに取り組んでいたことが考えられる。そのような子どもたちに、思いや意図に合った表現を粘り強く追求して行ってほしいと願う。

そこで本実践では、タブレット端末を用いて学級歌にドラムパートを付け「こんなときに聴きたい・歌いたい曲」にアレンジする音楽づくりを構想する。これによって、友達と試行錯誤しながら、音楽の仕組みの効果的な用い方を粘り強く追求していこう。また、音楽と生活の関わりを考えながら音楽をつくる楽しさを味わわせることで、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成していきたい。

2 題材について

- (1) 本題材では、日常生活において学級歌を聴いたり歌ったりしたい状況を考え、それに合ったドラムパートを、タブレット端末に収録されたリズム・パターンをつなげてつくる音楽活動を行う。これにより、リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さに関わらせて感じ取り、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくることを目標としている。

本学級の学級歌は、4つのまとまりがA-A-B-Cで構成されている三部形式の曲である。2つのAは同じ旋律とコード進行で構成され、Bはラップ調になっており、曲全体で反復と変化を感じ取ることができる。この曲に、「聴きたくなる・歌いたくなる」状況に合った音楽にするという思いを持ってドラムパートを付けることで、選ぶりズムや曲全体の構成の工夫によって、曲の雰囲気が変えられることに気づき、音楽づくりに没頭していこう。これにより、一人一人が思いや意図に合った表現を試行錯誤し、よりよい表現を見出していこう。その中で友達の考えや工夫のアイデアのよさに気づき、協働して音楽をつくる楽しさを味わわせたい。

- (2) 「エアコーキリズムアンサンブル」では、異なるリズムを重ねて生まれる新しいリズムに気づくことができた。曲のまとまりとリズムのつなげ方の関わりを考える経験は、高学年の和音や旋律のつなげ方、和音と旋律の関わりなどの学習に発展していく。

- (3) 本題材に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数36人)

- ① 音楽づくりの授業が好きな子どもが多いが、苦手意識をもっている子どもが4名いる。
- ② 音楽づくりの授業で難しさを感じることで、どんな音楽をつくれればよいか思いつかないこと、つくった音楽をうまく演奏できないことの2点を書いた子どもが多かった。

- (4) 指導にあたっての留意点は次の通りである。

- ① 第1次では、「どんなときに聴きたい・歌いたい曲にしたいか」と問い、生活場面や状況に合うアレンジをしていく見通しをもたせ、主題「チャレンジ！いろとりどりのリミックス」を設定する。そして、教師が用意した反復がないリミックスと、同じリズムの反復のみのリ

ミックスを鑑賞して比較させることで、つくりたい音楽にするために反復と変化を意図的に使い分けて音楽づくりに取り組むという見通しをもつことができるようにする。

- ② 第2次では、実際に音楽づくりに取り組む。アイデア発表会とその後のつくり直しを通して、反復で旋律や歌詞を引き立たせる曲のまとまりを生み出せることに気付いたり、変化で次のまとまりとのつながりを生み出せることに気付いたりできるようにする。
- ③ 本時では、曲全体の構成に着目して、表現したいことに合うように反復と変化を取り入れているペアの作品を取り上げて鑑賞する。表したい思いと表現の工夫を関連付けて考える姿を価値づけ、「曲全体の構成には、どんな工夫ができるだろう」という課題を設定し、曲全体の構成を工夫していく。
- ④ 第3次では、完成披露発表会を行い、つくった音楽がどのような状況に合うようにつくったのかとそのための工夫を発表することで、そのよさや学びの過程を振り返らせ、音楽の仕組みを用いて思いや意図を表現したことを自覚できるようにする。

3 題材の目標

- (1) リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくることができる。
- (2) 反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) リズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

4 指導計画（6時間取り扱い）

学習活動	主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援	時間
1 教師のつくった音楽を鑑賞して、題材の見通しをもつ。	○ 学級歌のドラムパートを、全て同じリズム・パターンが反復するものと1小節ずつ変わるものを提示して比較させることで、反復と変化を用いてまとまりのある音楽をつくりたいという思いをもてるようにする。 ○ タブレットに収録されたリズムパターンから選んでつなげてつくるようにすることで、音楽の仕組みに焦点をあてて試行錯誤できるようにする。	1
2 ドラムパートをつくる。	○ 題材の終末で「こんなときにぴったり」と「そのための工夫」を発表する見通しをもたせることで、つくりたい音楽について思いや意図をもつことができるようにする。 ○ どんな音楽にしたいかという思いが似ている子ども同士でペアをつくって活動することで、どのような音楽をどのように構成していくのか協働して取り組めるようにする。 ○ アイデア発表会では、思いや意図に合った反復と変化が表れている作品を取り上げて鑑賞することで、より思いや意図に合った表現を追求することができるようにする。 ○ 自分たちの音楽を見直す活動では、作品全体の構成に反復や変化のよさを生かしているペアを見取って取り上げることで、思いや意図をもってまとまり同士のつながりに着目してつくり直すことができるようにする。	4 本時 $\frac{4}{4}$
3 題材全体の学習を振り返る。	○ 作品を聴き合って感じたことや表現の工夫について気付いたことを交流し、学びを実感できるようにする。	1

5 本時の学習

(1) 目標

曲全体の構成に着目してドラムパートをつくり直す活動を通して、反復や変化などの音楽の仕組みを用いて思いや意図に合った音楽表現をすることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を設定する。	○ 前回の授業では他のペアの音楽から、表したいことに合わせて楽器の数を変えたり、リズムを複雑にしたりするとよいことがわかりました。でも、1小節ずつ変えるとドラムパートが目立ってしまったから、繰り返しでまとまりのある音楽にすることも大事でした。 ○ 前回は、1つのまとまりの中で、自分のつくりたい音楽になるようにリズムや楽器の数の変化を考えたな。じゃあ、曲全体の仕組みで工夫できることはないかな。
10	2 作品を鑑賞して、曲の構成の工夫について話し合う。	○ 1番と2番の前半が同じになっている。 ○ でも、後半の部分は、別のリズムになっているな。 ○ よく見たら、2番の後半では、最後は6のリズムを重ねていて、激しい感じがするんじゃないかな。聴いてみたい。 ○ ラップでは、5と6のリズムを使っている。激しい感じ。 ○ サビの前半は1と2のリズムで、ラップの激しい感じから急に落ち着いた感じに変わる。でも後半は1小節ずつリズムを細かくして行って、盛り上がるようにしているんだな。
20	3 自分たちの音楽をつくり直す。 ・演奏を聴く ・楽譜に表す ・思いを更新する	○ 1番より2番のリズムをもっと細かいリズムにして、さらに元気になっていく感じを表そうよ。 ○ 曲の最後の部分は、聴く人にどんな思いになってほしいかが1番表れるところだと思う。どんな流れで最後の部分に来るといいかな。 ○ わたしたちは、元気なときからもっと元気になるイメージをもっていたけれど、ゆうきくんたちは暗い気分のときから元気になるイメージで、まとまりごとにどんな思いを込めているかだけではなく、4つのまとまりの関係が大切だな。
10	4 本時を振り返って次時の見通しをもつ。	○ 私たちの曲は、もっと元気を出したいときにぴったりの曲です。最初から元気なリズムを使い、サビの方ではシンバルや太鼓がたくさん鳴るリズムを重ねてもっとにぎやかにしました。ゆかりさんから、元気な気持ちがさらに元気になる、元気120%な音楽だねと言ってもらいました。元気がもたらある人がさらに明るくなりたいときにぴったりの音楽というイメージが伝わってうれしかったです。次は、友達とこの曲に合わせて歌って、元気が出るか試してみたいです。



前時で、反復と変化の取り入れ方の具体とそれが生み出す音楽的なよさに気付いた子どもたち。本時では、曲全体の構成に目を向けて反復と変化を用いてつくり直す活動を通して、思いや意図を伝え合うこと、実際に音で試すことを繰り返しながら、思いや意図に合った表現を追求していきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示、教材・教具、評価）

- 前時の学習で見つけた反復と変化の用い方に関する学びのあしあとを掲示して振り返ることで、いずれも1つのまとまりの中での工夫であったことに気付くことができるようにする。
- 自分たちの作品にはアイデア発表会で出せなかった曲全体の構成に関する工夫があるという子どもの振り返りを取り上げることで、「曲全体の仕組みに目を向けると、反復と変化を使って表したいことを音楽で表す工夫には、どのようなものがあるだろう」という問いをもたせて、次の課題を設定する。

こんなときにぴったりの曲にするために、反復と変化はどのようにするとよいだろう。

- 「元気な気持ちをさらに元気にしたいときにぴったりの曲」をつくっているペアを取り上げて楽譜を提示し、用いる楽器やリズムの反復と変化の工夫を捉えさせた後、楽譜と照らし合わせながら鑑賞させることで、取り入れた工夫とそのよさを実感できるようにする。
- 1番と2番の前半のリズムの反復に関する気付きが出された際、「曲の感じは同じだけれど歌詞は違うから、変化した方がよいのではないか」と問い返すことで、1番と2番の後半の変化が強調されるというよさに気付くことができるようにする。
- 曲のつくり直しや相互鑑賞など、本時の学習で取り組みたい活動をペアごとに決めることで、思いや意図に合った表現を追求できるようにする。
- 曲の構成の工夫に関する表現の変容を捉えてそのよさを具体的に伝えたり価値付けたりすることによって、思いや意図を表現に生かせるようにする。
- 机間指導の際、曲の構成に合うように音楽をつくろうとしている意見があれば取り上げて全体に共有し、4つのまとまりを意識して音楽を再考することができるようにする。
- 曲全体に目を向けて、まとまりごとに組み合わせた楽器の数やリズムが異なることについて発言している子どもに、どのような思いをもった工夫なのか問うことで、表現したいことと曲全体の構成の工夫を関連付けて捉えていたことを自覚することができるようにする。
- 発表原稿の視点として、「①どんなときにぴったりの曲にしようという思いをもっているのか」、「②そのための工夫」、「③音楽に生かした友達の意見」を設定することで、作品に込めた思いや意図を捉えながら振り返ることができるようにする。
- 「このような音楽を、このように構成してつくった」という考えを記述している子どもの振り返りを見取り、意図的に指名して発表させることによって、作品に込めた思いと表現の工夫の意図との関連について自覚することができるようにする。

【教材・教具】

- 学びのあしあと
- 取り上げるペアの音源と楽譜

【評価】

曲全体の構成に着目しながら、反復と変化を用いて、表現したいことに合う工夫をしている。
(観察・振り返り)

